

# 新潟大学学術リポジトリ コンテンツ収集の取り組みについて

平成23年2月18日(金) DRF技術ワークショップin熊本  
新潟大学学術情報部学術情報管理課 住石智子

# 本日の発表内容

---

1. 新潟大学学術リポジトリの概要
2. 運用開始までの取り組み
3. コンテンツ収集方法
  - ・これまでの取り組みの紹介  
紀要論文、学術雑誌論文
  - ・今年度の取り組みについて  
「著者単位」の許諾確認(一括許諾)
4. 博士論文の登録
5. まとめ

# 1. 新潟大学学術リポジトリの概要

---

- ▶ 新潟大学学術リポジトリ

Nuar(ニューアー): Niigata University Academic Repository (URL: <http://repository.lib.niigata-u.ac.jp/>)

- ▶ 平成19年5月17日 運用開始

- ▶ 登録コンテンツ数 8,000件

- ▶ (平成23年2月1日現在)



## 2. 運用開始までの取り組み

---

- ▶ 平成18年度 国立情報学研究所(NII)「次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業」(CSI委託事業)領域1に採択
- ▶ 平成18年6月 図書館内にWG設置  
リポジトリ専門委員会設置
- ▶ 7月 教育研究評議会で承認

先行大学の見学・運用指針作成・教員向け学内説明会実施  
ソフトウェア導入(Dspace)・初期コンテンツ登録・・・



- ▶ 平成19年5月17日 運用開始

### 3. コンテンツ収集

■ 目標：大学の研究成果発信 + 大学のPR

▶ 平成19年5月17日 運用開始 3,782件でスタート

※ 9割が紀要論文



▶ 平成23年2月1日 現在 8,000件

※ 学術雑誌論文、学位論文、科研報告書、  
学内の特色あるコンテンツ(トキ野生復帰プロジェクト資料)  
映像資料(中越地震・中越沖地震関係) など

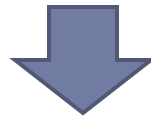
効果的なコンテンツ収集方法の確立は、常に課題

## これまでの取り組み1

対象： 学内紀要論文（最近のもの）

---

- ▶ 学内刊行物（主に紀要）の刊行状況を調査し、学部別にリスト作成
- ▶ 編集委員会にIR登録許諾を依頼



- ▶ 著作権が編集委員会に、
  - ある場合 → 登録の許諾をいただいた
  - ない場合 → 投稿規定の整備を依頼し、登録可能にした
- ▶ 編集委員会（教員）と連携・協力

▼ 投稿規程整備前（過去分）は登録できない

## これまでの取り組み2

### 対象： 学内紀要論文（過去分）

---

- ▶ 紀要編集委員会が、バックナンバーをIRで公開することについてホームページで宣言する

「異議がある場合は連絡してください。」

- ▶ 学部長名でHPに掲載（H22年5月）
- ▶ 1誌のみ実施



- ▶ 異議は寄せられなかったが・・・

## これまでの取り組み3

### 対象： 学術雑誌論文

---

- ▶ 研究者DBに掲載された論文リストをもとに「調査票」を作成し、個別に依頼（H18年実施）
  - ▶ 「IRの登録可否」「著者最終稿の有無」を同時に照会
- ▶ 回答があったものから出版社ポリシーを調べて、登録



- ▶ 国内誌については一部登録可
- ▶ 教員から登録可の返事をもっても、出版社ポリシーNGで登録できない場合もあり(特に医学系、歯学系)
- ▶ 著者最終稿の収集が難しい



## これまでの取り組み4

### 対象： 学術雑誌論文

---

- ▶ 出版社版が登録可能な学会等に焦点を絞る
  - ▶ AIP、APS、IEEE、日本機械学会、電子情報通信学会(H19～H20当時)
- ▶ 本学教員の投稿論文を調査し、個別に依頼



- ▶ ほとんどの教員が登録を許諾
- ▶ 登録数が大幅に増加！

▼ 論文刊行の都度、照会が必要

# これまでの取り組み1～4の 問題点まとめ

---

- ▶ 雑誌単位での許諾確認 ※紀要など
  - ▶ 投稿規定を整備すれば、以後刊行分はOK
  - ▶ 投稿規程を整備できなかったものや、過去分については、論文単位で許諾を得る必要がある
- ▶ 論文単位での許諾確認 ※雑誌論文など
  - ▶ 論文刊行の都度、許諾を得る必要がある

著者には何度も  
照会が必要

では、「著者単位」の許諾確認をしてみてもいい？

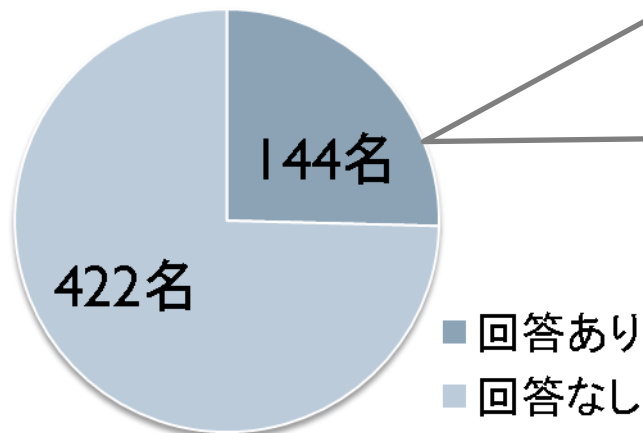
今年度の取り組み:

## 「著者単位」の許諾確認(一括許諾)

- ▶ 在職中に発表する全ての研究成果をIRに登録することについて、許諾を依頼 H23/1/24実施
  - ▶ 「登録許諾書」の提出により意思表示を依頼(許諾するor許諾しない)
  - ▶ 対象:教員566名(人文社会・教育科学系、自然科学系)

※医歯学系教員は対象外

### 【回答結果】



回答あり 144名 (回答率25.4%)

- ・許諾する 139名(96%)
- ・条件付き許諾 4名(3%)
- ・許諾しない 1名(1%)

H23/2/10現在

## 新潟大学学術リポジトリ登録許諾書

新潟大学附属図書館長 殿

氏名

私が執筆した論文を、下記のとおり「新潟大学学術リポジトリ」へ登録し、公開することについて、

- 許可します。
- 許可しません。

### 記

1. 本学の各部局関係者が編集・発行する紀要類への発表論文全てを、「新潟大学学術リポジトリ」に登録し、インターネットで無償公開すること。
2. 出版社、学協会等が発行する雑誌等への発表論文全てを、「新潟大学学術リポジトリ」に登録し、インターネットで無償公開すること。

### <注意事項>

- \*この許諾書は、著作論文のインターネット公開のため、著作権のうち複製権及び公衆送信権について許可をいただくものです。
- \*過去に発表した論文および今後発表する論文の全てをリポジトリ登録の対象とします。
- \*著作権が論文著者ご自身にあるものについては、許諾後、順次リポジトリに登録を行います。
- \*著作権が掲載誌の発行主体にあるものについては、発行主体の許諾条件に従いリポジトリ登録を行います。
- \*登録を希望しない論文については、別途ご連絡いただければ登録の対象外とします。
- \*インターネット公開時期を指定する必要がある場合、ご連絡いただければ対応します。

# 「一括許諾」に対する教員の反応(1)

---

## ▶ 許諾する(139名)

- ▶ 「許諾した場合、ほかに作業が生じるのか？(出版社への問合せや、IR登録条件の確認は図書館で行ってもらえるのか)」
- ▶ 「発行元から許諾を得て、個人 web で既に著作を公開している。IRでの公開は個人的に不要。(だが趣旨には同意する。)」
- ▶ IR未登録の自著論文を教えてくださいと教員も

## ▶ 条件つき許諾(4名)

- ▶ 「学内刊行物なら可」「学内刊行物は出して行くべき」
- ▶ 「今後のものを出すのはかまわないが、過去のものは出すようなレベルにないので...」

## ▶ 許諾しない(1名)

- ▶ 「本としてまとめるので今回は遠慮したい」

## 「一括許諾」に対する教員の反応(2)

---

### ▶ 問い合わせも多数あり

- ▶ 「著作権の問題は図書館でクリアしてほしい」
- ▶ 「著作権が出版社にあると思うが大丈夫なのか」
- ▶ 「登録する“論文”の範囲は？学会誌の投稿論文もすべて承諾書をもらう必要があるか？過去分についてはどうすればよいか？共著者が亡くなっている場合は？・・・」
- ▶ 「論文のpdfファイルダウンロードに 経費がかかる場合があり、心配である(特に英文)。」
- ▶ 「一括許諾すれば個別の申請は不要になるのか？」
- ▶ 「学内誌投稿論文についてはIR登録は当然だが、学外誌の場合は、本来、著作権を持つ学会や主催者が電子化を主導すべきと考える」

# 今年度の取り組み:「一括許諾」の協力依頼 今後の予定

- 回答が得られた教員からは、ほぼ賛同していただけた
- ▶ 今後の予定
  1. 許諾が得られた教員の論文を調査し、可能なものからIRへ登録する
    - ▶ まずは紀要論文(過去分)、学内刊行物
    - ▶ **論文単位での許諾照会は不要に**  
→ 登録がスムーズに行えるようになった??
  2. 回答が得られなかった教員に対して、趣旨に賛同するかどうかの確認を含め、再度依頼すべきか検討する
  3. 現職でない元教員については、別途手紙で依頼する

## 4. 博士論文の登録

---

- ▶ 大学院の研究科長名で「登録依頼文書」作成
  - ▶ 対象: 現代社会文化研究科、自然科学研究科の院生
- ▶ 論文提出窓口である学務係に協力依頼
  - ▶ 論文提出説明時に、「登録依頼文書」「IRパンフレット」「登録許諾書」を学務係から配布

許諾ではなく、「意思確認」を目標に  
※「許諾しない」という情報も重要

### 「登録許諾書」

- ▶ 登録許諾書はチェック方式(許諾する or 許諾しない)
- ▶ 提出先は学務係



## 5. まとめ

---

- ▶ 他大学の事例を参考にしつつ、自館の状況をふまえて、色々な方法を試してみることが大事
- ▶ 学内関係者（教員、紀要編集委員会、学務係）との協力関係も重要
- ▶ 今後は、著作権処理～登録までの手順を見直して、よりスムーズに運用していけるよう改善していきたい